

基本目標	8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
------	---	-------------------------

## 1 基本目標の 2021 年度の成果評価

## (1) 基本目標

① 基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か 未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価	
木下 徳康	<p>【評価】なし。</p> <p>【課題】諸課題の多くが地域社会からの孤立が背景であると認識する中で、人とのつながりを増すための施作の検討が必要。</p>
岡田 倫英	<p>【評価】妥当。高齢化、過疎化に伴う地域コミュニティの変化によって「地域で支え合う自立支援の体制づくり」は難しい状況が進んでいる中であっても、こうした状況に抗う取り組みを講じていく意義は大きい。※小戦略8-②で再掲。</p> <p>【課題】</p>
関島 百合	<p>【評価】おおむね妥当。</p> <p>【課題】地域と連携した地域福祉推進体制づくりに関しては、一部の住民への負担感が増えないようにしないと続かない。</p>
福澤 克憲	<p>【評価】ねらいと取り巻く状況の認識はおおむね妥当。</p> <p>【課題】</p>
小林 真一	<p>【評価】概ね妥当</p> <p>【課題】今後も地域福祉課題は増加すると予想する、担当部署の人員体制など、住民対応の基礎となる部分にも注力が必要</p>
佐々木 博子	<p>【評価】概ね妥当である。</p> <p>【課題】</p>
山崎 昌伸	<p>【評価】概ね妥当と考える。</p> <p>【課題】この基本目標の達成の為に、地域コミュニティのあり方が課題となる。コロナ禍が地域コミュニティに与えた影響は大きく、この事についての実態把握と対策が求められる。</p>

② 取り組みの内容をどう評価するか 戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価	
木下 徳康	<p>【評価】重層的支援体制の構築ができたこと</p> <p>【課題】地域福祉の範疇はまちづくりの単位ではなく、近所である。</p>

岡田 倫英	<p><b>【評価】</b> 戦略計画との関係性は適当で、目標達成に貢献していると言える。このうち重層的支援体制の構築を他に先駆けた取り組みであり、駆け出しの段階なりに工夫を重ねている点は評価できる。</p> <p><b>【課題】</b> ユニバーサルデザインが落とし込まれていないことで事故リスクにつながる施設が存在している可能性があり、研修とともに現況確認と環境整備の両面が必要。</p>
関島 百合	<p><b>【評価】</b> 重層的支援体制の初年度の取り組みの中で、ひきこもりや制度の狭間にいた市民への一助になれることが明らかになった。</p> <p><b>【課題】</b> 重層的支援体制のさらなる周知。</p>
福澤 克憲	<p><b>【評価】</b> 進捗状況確認指標「創出される地域福祉活動のモデル数」が10件追加され55件となり、地域の共助の輪が広がっていることは評価できる。</p> <p><b>【課題】</b> 地域社会を取り巻く課題に対応するため、地域活動による支え合いや住民相互の助け合い（共助）を推進していくことは理解できるが、行政による公的なサービスや制度（公助）についてもしっかりと説明をしていく必要性を感じる。また、国の掲げる「地域共生社会」は、福祉分野に留まらずとても広い分野と認識している。地域の共助を考える組織横断的な連携が必要になる。</p>
小林 真一	<p><b>【評価】</b> 重層的支援体制が構築されたことは大いに評価する</p> <p><b>【課題】</b> 上記評価する一方で住民周知がまだまだ足りない、庁舎内での周知も足りないと聞く、今後は周知をしながら住民に親身になって寄り添うことが必要</p>
佐々木 博子	<p><b>【評価】</b> 一定の評価ができる。</p> <p><b>【課題】</b></p>
山崎 昌伸	<p><b>【評価】</b> 重層的支援体制の構築など、評価できる。</p> <p><b>【課題】</b> 上記①と同じ</p>

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	8-①	地域福祉課題検討会の開催による地域福祉活動の推進
<p>戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等</p>		
木下 徳康	<p><b>【成果】</b> 20地区の地域支え合い活動実績をまとめたものは良い。 地域福祉検討会開催できない地区のあったことは年度戦略として評価できない。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> 地域福祉の範疇はまちづくりの単位ではなく、近所である。</p>	
岡田 倫英	<p><b>【成果】</b> 概ね果たしていると言える。地域福祉コーディネーターが地域での調整役となり、身近な先進事例を横展開したのは前年度からさらに進んだ取り組みだと言える。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> コロナ下で難しかったと思われる「地域福祉コーディネーターと地域住民が連携した</p>	

	取り組み」が前進するよう、サロンと併用した学習会など地道なところから取り組むことが必要。
関島 百合	<p>【成果】 新たな取り組みが進み、検討が始まった地区もある。</p> <p>【課題・方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の役のなり手不足の中、負担感ではなく、やりがいを感じなければ継続は難しい。</li> <li>・地域福祉コーディネーターの力量が問われる。</li> </ul>
福澤 克憲	<p>【成果】 各地区の福祉課題を検討する「地域福祉課題検討会」がコロナ禍においても12地区で開催されたこと、また地域支え合い活動の状況から全20地区においてさまざまな事業が展開されていることは評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 国の掲げる「地域共生社会」を実現するためには、まずは各地域の活動状況や課題を共有していくことが大切。</p>
小林 真一	<p>【成果】 地域福祉コーディネーターの取り組みを評価する</p> <p>【課題・方向性等】 地域福祉コーディネーターについて、20地区9名体制についてある程度十分との事だが、中山間地域など地域の実情に合わせた人員配置を今後も注視する必要がある</p>
佐々木 博子	<p>【成果】 概ね役割を果たしたと評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 地域福祉コーディネーターの資質向上はもちろん重要だと思うが、活動内容の量や負担を考えると人数がもっと多くてもいいような気がする。</p>
山崎 昌伸	<p>【成果】 コロナ禍で取り組みが難しいなか、新たに2地区で福祉有償運送の具体的な検討が始められたり、好事例の横展開が図られるなど、評価出来る。</p> <p>【課題・方向性等】 地域福祉コーディネーターによる地域での学習会は、参加者をどう考えているか。組み立てが不十分で、成果が期待できない。</p>

年度戦略 (小戦略)	8-②	住み慣れた地域に住み続けられる社会の構築
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等		
木下 徳康	<p>【成果】 地域見守り協定、福祉有償運送は評価する。</p> <p>【課題・方向性等】 自宅に住に続けるにも限界がやがてはくるが、その間、自立した生活が続けられる支援が重要。</p>	
岡田 倫英	<p>【成果】 概ね果たしている。住民支え合いマップを18地区が更新したほか、新たに7事業所と地域見守り協定が締結されている。</p> <p>【課題・方向性等】 高齢化、過疎化に伴う地域コミュニティの変化によって地域で支え合う自立支援の体制づくりは難しい状況が進んでいる中であっても、こうした状況に抗う取り組みを講じていく意義は大きい。民生児童委員のなり手不足は長年にわたって問題視されており、委員の負担感軽減を一層検討することが求められる。</p>	

関島 百合	<p><b>【成果】</b> さまざまな取り組みができた。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> ・民生児童委員のなり手不足。 ・地域コミュニティーの維持。</p>
福澤 克憲	<p><b>【成果】</b> 社会全体での見守り強化のため、事業者の皆さんと「地域見守り協定」が新たに7事業所（計24事業所）と締結できたことは評価できる。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> 住民支えあいマップの作成・更新を行うことによって、地域の支え合いの意識が高まり、実際の行動につながっていくような展開が大切。</p>
小林 真一	<p><b>【成果】</b> 住民支えあいマップの整備に取り組んだ点を評価する</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> 住民支えあいマップの整備を更に進め、災害時などにも活用できるように、担当部署を超えた連携が今後も必要と考える</p>
佐々木 博子	<p><b>【成果】</b> 概ね役割を果たしたと評価できる。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> マップの作成充実はもちろん重要だが、いざ有事の時、マップだけあっても「会ったこともない人に何をどうすればいいのかわからない」「障がいのある人の支援の仕方がわからない」ということも起こりうる。互助共助の意識づくり同様、体制づくりや実践的な訓練活動はなかなか難しいが、今後も関係各所と連携した取り組みに期待します。</p>
山崎 昌伸	<p><b>【成果】</b> 18地区で住民支えあいマップが更新され、事業所との地域見守り協定の締結など、一定の評価はできる。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> 数年前から課題となっている、民生児童委員の負担軽減となり手不足解消への記述がなく、本気で取り組んでいるのか疑問。</p>

年度戦略 (小戦略)	8-③	複合化・複雑化した課題解決に向けた重層的支援体制の構築
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等		
木下 徳康	<p><b>【成果】</b> 庁内外の関係機関による連携態勢が構築できたこと。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> 課題の解決の活動の方向性。事例ごと人と人とのつながり、社会とのつながりの中で解決する活動が地域づくり（厚生労働省）に必要。</p>	
岡田 倫英	<p><b>【成果】</b> 「福祉まるごと相談窓口」設置の初年度にあって、役割を果たす方向性が垣間見られた。ひきこもりや制度の狭間にある案件の相談窓口として広報したことにより、初対面11組とつながりをもって対応できた。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b> 庁内外で制度の周知が課題であり、特に庁内においては国の情報を収集しつつ連携の一層強化が求められる。</p>	

<p>関島 百合</p>	<p><b>【成果】</b>                  ・これまで把握が難しかった、ひきこもりで悩む市民とのつながりが徐々に持てるようになった。                  ・ひきこもり家族学習会を開催するなど、初年度に具体的な取り組みができた。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b>                  ・重層的支援体制に県内で最初に取り組んだことから、飯田市は注目されている。このため、プレッシャーがあるかもしれないが、飯田市内外の関係機関との連携をより強化しながら、取り組みを模索する2年目にしてほしい。                  ・「地域共生社会」の実現を目指して、地域住民や多様な主体と協働で地域福祉を進める←組合に加入する世帯と高齢世帯が増えていく現状であるため、掲げる理想としてはいいが、現実的であるのか。一部の住民に、負担のしわ寄せがいかないか。そうであれば、「地域共生社会」とは言えないのではないか。</p>
<p>福澤 克憲</p>	<p><b>【成果】</b>                  令和3年4月「福祉まるごと相談窓口」を設置、重層的支援体制整備事業に全国に先駆け（県内では唯一）取り組み、相談・課題解決の実績を上げていることは、評価できる。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b>                  今後も国の制度（重層的支援体制整備事業）の動向を注視しながら、庁内外連携した取り組みをお願いしたい。</p>
<p>小林 真一</p>	<p><b>【成果】</b>                  重層的支援体制整備事業にいち早く取り組まれた点は大いに評価する</p> <p><b>【課題・方向性等】</b>                  ・重層的支援体制について、今後は住民と庁舎内部で更に周知をしながら住民に親身になって寄り添うことが必要                  ・また、重層的支援体制の取り組みの先進地として視察対応もしているとの事、各自治体との情報共有、課題共有しながら住民にとって更に良いものとしていく必要がある</p>
<p>佐々木 博子</p>	<p><b>【成果】</b>                  役割を果たしたと評価できる。「福祉まるごと相談窓口」の設置。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b>                  複合的な課題を持つ親族支援のために一人で奔走した経験者からすると、このような窓口の存在は「とにかく一歩踏み出す」ために非常に重要だとわかる。ただ、そこから先へさらに踏み出すために行政がどう伴走していけるかどこまで伴走していけるかは、簡単には解決しづらい課題がたくさんある。</p>
<p>山崎 昌伸</p>	<p><b>【成果】</b>                  県内で唯一、重層的支援体制整備事業を行ったことは評価出来る。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b>                  行政の体制は整備したが、相談窓口が市民にどれだけ周知されているか、また、利用者の反応はどうか、常に気にかける必要がある。</p>

<p>年度戦略 (小戦略)</p>	<p>8-④</p>	<p><b>障がい者の社会参加の推進</b></p>
<p>戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか  <b>基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等</b></p>		
<p>木下 徳康</p>	<p><b>【成果】</b>                  「障がい者文化芸術作品展」「地域活動支援センター」など役割を果たしている。</p> <p><b>【課題・方向性等】</b>                  障がい者の社会参加と市民の理解の深まりを更に推進。</p>	

岡田 倫英	<p>【成果】 コロナ下で社会参加の機会そのものが少ない中、概ね役割を果たしている。障害者自身の活動参加に加え、地域リハビリテーションを通じて介護者の負担軽減にも取り組んでいる。ユニバーサルデザインの推進に関しては成果欄に記載がなく、初動期の段階だと言える。</p> <p>【課題・方向性等】 前年度から指摘が出されている、障害者の就労について課題認識と状況の記載が必要。</p>
関島 百合	<p>【成果】 幅広い取り組みができた。</p> <p>【課題・方向性等】 おおむね妥当。</p>
福澤 克憲	<p>【成果】 創作的・生産活動、地域社会との交流を図る場所として「地域活動支援センター」を新たに1カ所事業所指定し、障がい者の社会参加を推進したことは評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】</p>
小林 真一	<p>【成果】 概ね役割を果たした</p> <p>【課題・方向性等】 障がい者の就労については大事な視点でもあるが、個々の状況で一括りにできない部分もあり課題も多いと考える、今後の行政評価において評価項目とするかは悩むところ</p>
佐々木 博子	<p>【成果】 役割を果たしたと評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 障がい者の社会参加と同時に、健常者の障がい参加(体験)のイベントがもっとあればいいと思う(車椅子体験やブラインドウォークなど)。 就労を含めた社会参加の推進への取り組みを検討されたい。</p>
山崎 昌伸	<p>【成果】 「バリアフリー」でなく、「ユニバーサルデザイン」の考え方を採り入れた点は評価出来る。</p> <p>【課題・方向性等】 一方で、ユニバーサルデザインがどこまで理解されているか、対象は障がい者に限定されていないので、この小戦略のみで取り組むのではなく、この考え方を広く普及させるにはどうすべきか、全庁的な検討が必要と考える。</p>

### (3) 実績を踏まえた事業確認

<p>2022 年度戦略の方向性・妥当性、社会的環境変化への適応状況等を反映しているか 現状確認と今後に向けた課題・方向性等</p>	
木下 徳康	<p>生きづらさ、暮らしづらさを抱える市民が増えているとのこと地域福祉のため共助の実践を促しても厳しいものがあり、支える人・支えられる人とが別れてしまう。それでは地域社会からの孤立は解消しない。</p> <p>「地域福祉における共助の実践」するためには孤立化の緩和できる施策を検討すべきだと考える。</p> <p>重曹の支援態勢整備事業の地域づくり(厚生労働省)の構築が重要になってくると思う。</p>
岡田 倫英	<p>概ね反映している。「複合化・複雑化した課題解決」においては、コロナ下や物価高の影響が背景要因に加わってくると考えられ、寄り添った対応が求められる。</p>

関島 百合	戦略の中に「重層」といった語句がない。「障害」といった語句はある。「重層的支援相談」の相談件数も初年度で一気に600を超えたため、盛り込んでどうか。
福澤 克憲	おおむね反映している。
小林 真一	コロナ禍において、人と人との繋がりが希薄になることが懸念される、「繋がり」「見守り」「地域福祉」などこれからの対応についても状況に合わせて柔軟に対応していく必要があると考える、踏ん張りどころであり、評価しつつも今後についても注視が必要
佐々木 博子	反映している。
山崎 昌伸	誰一人取り残されない社会の構築に向けて、重要なテーマである。この事業が成果をあげるには、福祉の必要な人を見落とさない、見逃さない体制や制度の構築が求められる。その意味において、現状の取り組みで十分かどうか、不断の見直しが求められる。

#### (4) 進捗状況確認指標

進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	
<b>達成度を成果指標等により評価できる点と今後に向けた課題・方向性等</b>	
木下 徳康	今のところは妥当。
岡田 倫英	地域支え合い活動推進事業実績の表では「検討・準備中」「未着手」等の表記もあると尚分かりやすくなるのではないか。
関島 百合	地域福祉課題検討会が開催されなかった地区があることから、飯田市が目指す「地域共生社会」は、理想で終わらないか。地域間格差も気になり。
福澤 克憲	おおむね妥当。
小林 真一	「重層的支援相談件数(件)」について、現状の数値設定で良いと考える、まずは住民、庁舎内でしっかりと周知していただき、困っている多くの方に寄り添っていただきたい、その一方で、その先として、単純に件数だけで良いのかという点については、一步一步進めながら、検討していく必要がある
佐々木 博子	妥当である。
山崎 昌伸	創出される地域福祉活動のモデル数に、該当する地区数を付加するよう要望する。幾つかの地区だけが突出した結果として全体の数字が上がっている状況は、好ましくない。